

備中とと道・駅からトレイル プチガイド

④高梁・成羽→吹屋(16KM 5:30)

「いく山河こえ去りゆかば、、、」と
若山牧水が歌った吉備高原の奥山を辿り
終着地 ジャパンレッド・備中吹屋へ向う

コースタイム (参考値)

JR伯備線備中高梁駅下り

着 8:19 or 9:41

駅前北備バス発 8:30 or 9:50

成羽美術館前

着 8:51 or 10:07

→①水道記念碑 (1:10)

→②窓坂下 (1:00)

→③宇治 (1:10)

→④吹屋 (2:00)

計 5時間20分

JR高梁向けバス 吹屋発 15:45

高梁着 13:20

JR高梁向けバス 成羽発 13:03

高梁着 13:20



成羽の總門橋



水道記念碑



牛供養碑



宇治への山道入り口



延命寺

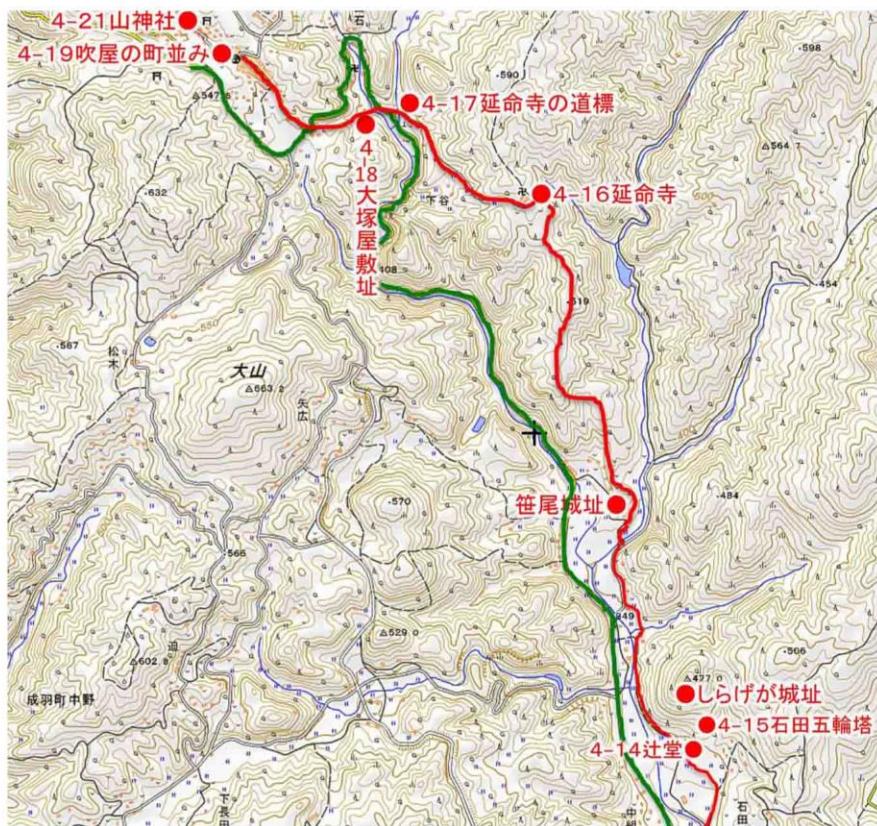




①成羽美術館前→窓坂



②窓坂下→宇治



③宇治→吹屋

④高梁・成羽→吹屋

(16KM 5:30)

備中とと道トレイルガイドブックより抜粋。実際に歩く折りには同書を参照下さい。説明表題のNOはガイドブック地図中のNOです。

4-3 島木橋



成羽からのとと道はまず宇治町から流れてくる島木川沿いを行く。この川は羽山の渓谷を下ってきて成羽川に合流する。しばらく進み島木橋を渡り、その先右手の坂道に入北上、東枝地区へと向う。

4-10 窓坂峠



急坂を登りきると稜線上の車道を行くようになる。途中で右手の登山道に入る。山頂360mあたりが窓坂と呼ばれており、木々の切れ目から成羽の町が一望できる。急な坂道を見上げると前方にぽっかりと空いた空間が窓の様に見えたことから「窓坂峠」と呼ばれるようになったということである。

♪”吹屋よいとこ 金吹く音が 聞こえますぞえ 窓坂え“

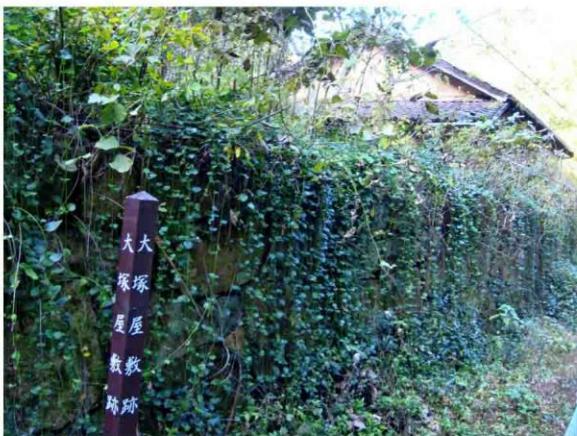
4-12 宇治 元中田邸



窓坂下から先はしばらく車道を辿る。沿道の松林は秋には松茸が生えるとのことで厳重な侵入規制がされている。森に入ると右手に「吹屋往来」と明示された看板があり、ここから宇治への気持の良い林間の山道に入る。高压線の下を通り先に進むと二股になり、右は302号線へと下る。左は本来のとと道であるが途中、倒木で通行困難なため西に迂回して後谷の南端部分へ下る。山中の田園地帯を辿ると85号線に合流する。左へ進めば江戸時代の庄屋を引継いだ明治中期建築の元中田邸が現れる。

邸が現れる。酒蔵を改修し、研修宿泊施設「備中宇治 彩りの山里」として活用されている。珍しい「囲炉裡（いろり）の間」があり、土蔵は資料館として整備されている。庄屋の伝統を今に伝える貴重な建物である。

4-18 大塚屋敷跡



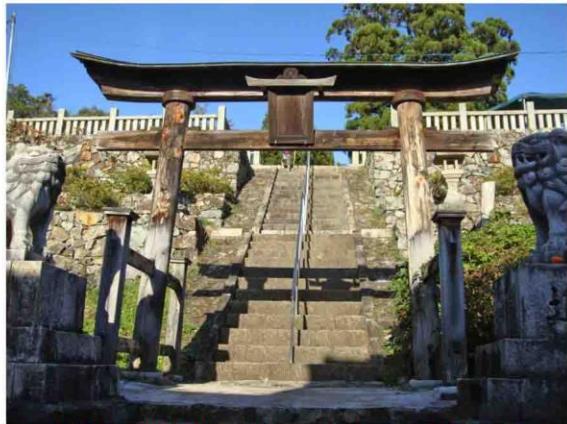
宇治から先は水田地帯の後に深い山中の急登になる。登りきると延命寺、その先が吹屋の前線とも言える下谷地区になる。**銅山事業で隆盛を極めた大塚家の豪邸と墓所がある。**屋敷横の石段は吹屋に至る坂道で、大塚坂と呼ばれ往時を伝えている。

4-19 吹屋の町並み



吹屋は「吹屋ふるさと村重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている。この町は、江戸時代から明治にかけて、日本有数の銅山町として栄え、さらに江戸時代末期からは、**ベンガラの国内唯一の生産地**としてより一層繁栄した。往時は、銅、鉄、薪炭、雑穀を集散する問屋やベンガラの商家が軒を連ね、江戸時代末期から明治初期の建造物が多くを占めている。赤茶色の石州瓦と妻入り、ベンガラ壁、そして格子に代表される町並みである。最近出来た公民館や郵便局も外観をその景観に合わせて建てられている。

4-21 山神社（本山神社）



吹屋の町並みの中心地の右手に旧吹屋町役場がある。現在は資料館になっており、往時貴重だった卵を保管する為の卵部屋や、厳重に保安設備の整った当主夫妻の寝室が有ったりして驚かされる。町並の西はずれには銅山祭神の山神社（本山神社）がある。狛犬の祀られている石段を登ると、明治6年に銅山の経営を引継いだ**三菱の社紋の入った玉垣**がある。本殿は銅山を経営していた大塚氏が建立したと言われている。山神社の先で町並みは途切れる。